

2章 有効活用事例

既存学校施設の有効活用事例から学ぶこと

本調査研究では、全国から既存学校施設の有効活用事例を収集し、さらに現地ヒアリングをし、その実態を調査研究しました。これらの事例から読み取れる共通するキーワードを以下に列挙します。詳細については各事例を参照下さい。

● 子どもたちの生活空間や居場所をつくる

木質系材料を使用した温もりのある空間、身近な家具を工夫した子どもの居場所、色彩・デザインを工夫したわくわくする空間等、親しみの持てる空間がつくられています。

● 建物を「時代」と共に育てていく

普通教室のオープン化、多目的教室の整備、メディアセンターとしての図書室機能の強化、特別教室の再配置、教科センター型方式への移行、職員室・校務センターの充実等、学習空間を現代化する様々な試みがなされています。

● 改修の動機、目的をはっきりさせる

耐震化等安全・安心の確保、学習空間の現代化、バリアフリー化、地域施設化の4つに大きくまとめることができます。

● 学校づくりをまちづくりへとつなげる

「子育てサロン」やボランティア休憩室等を整備し、子どもたちと地域の人々の交流を活性化しています。学校づくりがまちづくり、コミュニティづくりにつながります。

● 人々の参加の中で既存学校施設の有効活用を考える

構想づくりへの住民参加、ワークショップでの意見交換、参加対話型設計のプロセスをとり、教職員・地域等関係する人々が話し合いながら改修を進めることも行われています。

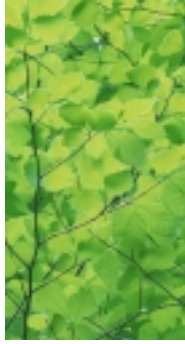
● 毎年少しずつ継続的に改修できる

目の前にある空間を相手にしているもので、誰でもが具体的かつ詳細に考え、提案することができます。職員と地域が協力して楽しい空間を手作りしている学校もあります。また夏休み等の休暇期間に、少しずつ継続的に改修していくこともできます。先生たちは前の年で計画し試みたことを日常の授業実践で検証することができます。その反省の上に次の改修計画を考え、進めていくことができます。

● 適切な手入れをしていく

中・長期的な整備計画を策定する、学校専用の大工さんを常駐させ市内の学校の日常的な修理をこまめにする等、日常的な維持管理をしています。

飯舘村立飯樋小学校 (福島県)



1. 地域特性

飯舘村は、福島県の北東部、福島市と原町市の中間に位置している。高原地帯独特の冷涼な気候であり、冷害に強い葉たばこや高原野菜の栽培が盛んである。また、「飯舘牛」のブランド化を推進しており、村の知名度が全国的に広がっている。

2. 事業の経緯

児童の急増期に建設された南・北校舎は、外壁の剥離等のため、一部立入禁止となる等老朽化の進行が問題となっていた。そのため、南・北校舎を大規模改修する計画としていたが、耐震診断及び耐力度調査の結果、南校舎を改築し、北校舎を耐震補強及び大規模改修することとなった。また、この南・北校舎の整備に併せて、西校舎(S60築)の改修も行い、学校校舎全体で機能改善を図ることとなった。

設計者をコーディネーターとしたワークショップを計5回開催し、教員、児童、地域住民、検討委員会及び教育委員会が参加し、意見・要望が設計に反映された。

学校建設に対する村の基本的な考え方

(飯樋小学校建設スローガン)

- ① 子どもにやさしさ、あたたかさ、ふるさとの心を
- ② 子どもにとって楽しい居場所づくり
- ③ 子どもの成長に見合った教室づくり
- ④ 子どもと教師のふれあいが深められる学校づくり
- ⑤ 地域の教育力を育て、地域活力の拠点施設



改修後平面図



展示ホール



サロン



畳コーナー

3. 事業の内容

○学校校舎全体での諸室の再配置

児童数の減少により、各校舎に2学年分の普通教室と特別教室、管理諸室等が分散して配置されていた。そのため、今回整備の村の基本的な方針の下、学校校舎全体での諸室の再配置が行われた。改築した南校舎に多目的スペースを持った普通教室・図書室・コンピュータ室等が配置され、改修した北・西校舎には、地域開放を視野に入れた特別教室等が配置された。

普通教室(2CL)と多目的スペースがあった西校舎は、多目的スペース部分に準備室が設けられることにより、特別教室が2教室確保された。また、残りの多目的スペースは展示ホールとなった。

○地域開放への対応

地域住民から要望があった地域との交流スペースとして、北校舎1階にサロンや畳コーナーが設けられた。サロンは、地域住民がいつでもくつろげる場として、

また、畳コーナーは総合的な学習の時間にも使用できる場として整備された。

傾斜地のため各校舎にレベル差があり、また、利用する地域住民が比較的高齢であるため、改築した南校舎だけでなく、改修した北・西校舎にもスロープ、階段昇降機、自動扉や多目的WC等が設置され、学校校舎全体がバリアフリー化された。

4. 成果と課題

外装・屋根を改修し、内装に木を多用し、エリア毎にサッシ枠等の色を変えるなど改築した南校舎と一体感のある雰囲気となっている。校舎全体で動線が考えられており、地域開放へも十分配慮されている。

様々な人の思いが設計に取り入れられ実現しているが、学校や地域住民がいかによく使いこなしていくかが今後期待されている。



外観 (改修前後)



内観 (改修前後/赤線部分を耐震補強)

